

2018年7月10日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.co.jp

EL18-32

絵画・写真・絵手紙コンテスト 「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」

第8回の受賞者8名を発表

～ 最優秀賞は安藤真央さん(鳥取県)、児玉秀俊さん(長野県)、野城郁郎さん(東京都)～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は2018年7月9日(月)、東京都内にて第8回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」絵画・写真・絵手紙コンテストの授賞式を開催し、絵画部門・写真部門・絵手紙部門あわせて112件の応募の中から、8名の受賞者を発表し、表彰しました。



【受賞者、審査員、後援者、主催社による記念撮影】

第8回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」受賞者

【最優秀賞】

絵画部門: 安藤 真央(あんどう まお)さん	(鳥取県米子市/26歳) 『笑顔の花』
写真部門: 児玉 秀俊(こだま ひでとし)さん	(長野県松本市/56歳) 『明るい未来に向かって!』
絵手紙部門: 野城 郁郎(のしろ いくお)さん	(東京都足立区/53歳) 『七転び八起き』

【優秀賞】

絵画部門: 脇田 伸(わきた しん)さん	(愛知県豊明市/62歳) 『卒寿の祈り』
写真部門: 波多野 清(はだの きよし)さん	(愛知県豊川市/71歳) 『あさぎまだら』
絵手紙部門: 内藤 三枝子(ないとう みえこ)さん	(東京都大田区/66歳) 『ばあちゃん、カソラぼうしがとんじょうよ』

【一般投票賞】

絵画部門: 脇田 伸さん ※「優秀賞」と同時受賞	
写真部門: 前田 美智子(まえだ みちこ)さん	(東京都中央区/36歳) 『鴨川ピクニック』
絵手紙部門: 養田 公美(ようだ ひろみ)さん	(長野県千曲市/72歳) 『歯型で遺した孫のがんばり』

受賞作品の画像・エッセイ(抜粋)をp3-5に掲載しております。画像データもご用意しております。

日本イーライリリーの執行役員でオンコロジー事業本部長の勝間 英仁は、次のように述べています。「リリー・オンコロジー・オン・キャンパスは、がんと告知された時の不安や、がんと共に生きる決意、がんの経験を通して変化した生き方などを絵、写真、絵手紙とエッセイで表現し、多くの人とその想いを分かち合っただけ『場』です。8 回目を迎えた今年は、昨年を上回る多くの方にご参加いただき、想いの輪が広がっていることを実感しています。本コンテストが、がんになっても自分らしく生きられる社会の実現の一助となることを心から願っております。弊社は今後も革新的な抗がん剤の開発に取り組むとともに、患者さんや支援者の皆さんの心に寄り添い、継続的なサポートを提供してまいります」

第 8 回の受賞作品は、今後全国の医療機関や疾患啓発イベント等で展示される予定です。

<第 8 回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」 募集・審査について>

募集期間： 2017 年 7 月 18 日～2018 年 1 月 31 日

応募件数： 絵画部門 43 件 写真部門 43 件 絵手紙部門 26 件

募集テーマ： 「がんと生きる、わたしの物語。」

審査： 【最優秀賞、優秀賞、入選】

絵画・写真・絵手紙作品ならびに制作背景を綴ったエッセイについて、作品の技術的・芸術的な評価よりも募集テーマを的確にとらえた作品であるかを重視し、以下 4 名の審査員により 2018 年 4 月 2 日に行われ、最優秀賞、優秀賞、入選の計 12 点を決定しました。

【一般投票賞】

審査員により選出された作品 12 点を対象に、4 月 10 日～6 月 3 日の期間中、リリー・オンコロジー・オン・キャンパスのウェブサイトにて一般投票を実施し、決定しました。

審査員： 蓑 豊(兵庫県立美術館 館長)、岸本 葉子(エッセイスト)、

東儀 光則(銅版画家)、平山 ジロウ(フォトグラファー) ※順不同／敬称略

賞： 最優秀賞(各部門 1 名)、優秀賞(各部門 1 名)、一般投票賞(各部門 1 名)、入選(若干名)

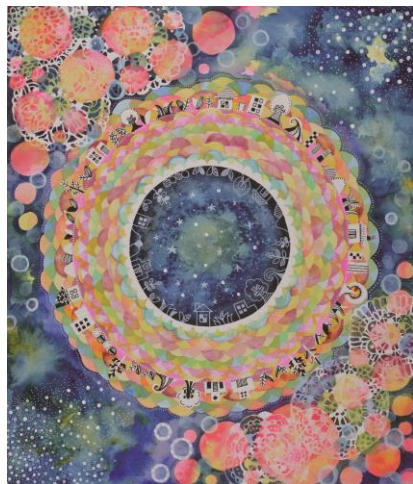
日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。

詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

【最優秀賞】 絵画部門

安藤 真央（あんどう まお）さん <鳥取県米子市> 作品タイトル『笑顔の花』



■エッセイ(抜粋)

ずっと明るくて元気だった母の突然の病気に、家族一同、心底落ち込みました。それなのに、前を向いて微笑む母の力強い姿がありました。母は癌についてのあらゆる本を読んで勉強し、それを実践しながら毎日笑顔で暮らしています。私はそんな母に負けないよう、笑顔で生きていこうと決めています。自分の笑顔が母の笑顔に繋がるのだと、母が教えてくれたからです。そしてまたその笑顔が、誰かの笑顔に繋がっていくことを信じています。

【最優秀賞】 写真部門

児玉 秀俊（こだま ひでとし）さん <長野県松本市> 作品タイトル『明るい未来に向かって！』



■エッセイ(抜粋)

すい臓がん、油断せず、でもお気楽にという合言葉を信条にして、5年目に突入することができました。細々ながらまっすぐ前を向いて生きている！という今の私を写真で表現してみようと思い、近くの高原へ足を向けていました。遭遇したのが虫食いされてボロボロの葉を持つツル性の植物。まさに、これだ！！光が降り注ぎ、そこに向かって貧弱だけでもまっすぐ上を向いて伸びていく姿に感動し、まっすぐ生きろ！と励まされているようでした。

【最優秀賞】 絵手紙部門

野城 郁郎（のしろ いくお）さん <東京都足立区> 作品タイトル『七転び八起き』

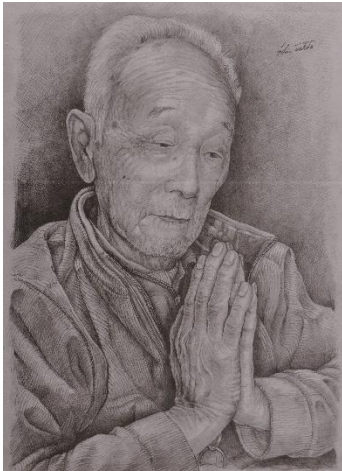


■エッセイ(抜粋)

治療が終了し6年目、再発が見つかった。ある時、妻にこう話した。「なんで、俺は、何度も試練を与えられるんだろう？」そして、妻は言う。「試練を乗り越えられる人に、試練が与えられるんだよ」と。試練を乗り越える力。また、立ち上がる力。それを、私が本当に備えているのは疑わしいが、妻の言葉が私には大きな力となった。当たり前の生活を、再び取り戻したい。こんな希望を胸に「七転び八起き」である。

【優秀賞／一般投票賞】 絵画部門

脇田 伸 (わきた しん) さん <愛知県豊明市> 作品タイトル『卒寿の祈り』



■エッセイ(抜粋)

母が入院し「がん」と告知された日、騒然とした家族の話し合いが進むにつれて、がん細胞に対する怒りや恨みの話題になっていったのでした。その時でした。90歳を迎えた父が小さな声でゆっくりと話を始めました。「母さんと二人で、残されたわずかな時間をがんとともに生きていければそれで幸せだよ。」ゆっくりと、ゆっくりと両手を合わせ、無言のまま祈りはじめました。「がんとともに生きる」という父の言葉は、母とともに生きた幸せな人生に感謝する気持ちに溢れていました。

【優秀賞】 写真部門

波多野 清 (はたの きよし) さん <愛知県豊川市> 作品タイトル『あさぎまだら』



■エッセイ(抜粋)

妻が癌で亡くなり 8 年後、今度は自分が癌の洗礼を受けてしまった。今は元気に暮らしているが、50 年以上続けている趣味の写真もまた生きる支えになっているような気もする。最近は「あさぎまだら」に興味を持っている。2000 キロ以上と言う、気の遠くなるほどの距離を移動している個体もある。ある日、羽がボロボロになった蝶を見つけた。過酷な旅で精根尽きそうだが懸命に生きている姿に感動し、自分も勇気を与えられたような気がした。

【優秀賞】 絵手紙部門

内藤 三枝子 (ないとう みえこ) さん <東京都大田区> 作品タイトル『ばあちゃん、カツラぼうしがとんじゃうよ』



■エッセイ(抜粋)

健康には自信があった私が、検査した結果は乳がんでした。覚悟はしていたものの、毛が抜けて行く姿に落ち込みました。ある日、孫が「公園へ行こう。」と言うので、こっそり外出用のカツラをつけ、さらに帽子をかぶって行きました。風が強く吹き、その時でした。孫がとっさに、「ばあちゃん、カツラぼうしがとんじゃうよ！」と言ったのでした。孫はちゃんとわかっていたのでした。それまで何も聞かなかったのは、孫のやさしさだったのでしょうか。

【一般投票賞】 写真部門

前田 美智子 (まえだ みちこ) さん <東京都中央区> 作品タイトル『鴨川ピクニック』



■エッセイ(抜粋)

彼女はすい臓がんだった。難治の小児がんと診断された息子連れ、セカンドオピニオンを受けるためこの地を訪れた我が家と、このピクニックを計画してくれた。彼女は一眼レフカメラを取り出すと私達にレンズを向けた。チューして！と乗せられた。希望を求め、はるばる訪れた一家が、実は陽気なピクニックの帰りだなんて、医師は思いもなかったはず。半年が過ぎ、彼女は亡くなった。「生きることって、時に、本当に素晴らしい瞬間が訪れるときがあるから。」私はその言葉を信じて生きる。

【一般投票賞】 絵手紙部門

養田 公美 (ようだ ひろみ) さん <長野県千曲市> 作品タイトル『歯型で遺した孫のがんばり』



■エッセイ(抜粋)

宝物のような孫に病気が見つかったのは、生後 3 ヶ月の時のことです。小児がんでした。ある日のこと。苦しそうな息をしていたかと思うと、突然、私の目の前で歯を食いしばりはじめたのです。私はとっさに自分の左手を孫の口の中に突っ込んでいました。落ち着いてから見てみると、生えたてのかわいらしい二本の歯の跡が私の左手に深く刻まれていました。私の左手には、今でもはっきりと孫の頑張った跡が遺っています。そして、その歯型が私にいつでも「生きることの大切さ」を教えてくださいます。

※受賞作品の画像データもご用意しております。ご希望の際は、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。